

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2014-43671

(P2014-43671A)

(43) 公開日 平成26年3月13日(2014.3.13)

(51) Int.Cl.
E03C 1/264 (2006.01)F 1
E O 3 C 1/264テーマコード (参考)
2 D 0 6 1

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2012-184783 (P2012-184783)
(22) 出願日 平成24年8月24日 (2012.8.24)(71) 出願人 000004709
株式会社ノーリツ
兵庫県神戸市中央区江戸町9番地
(71) 出願人 511053078
関東産業株式会社
群馬県前橋市小坂子町9番地2
(74) 代理人 100110179
弁理士 光田 敦
(72) 発明者 北川 輝久
群馬県前橋市小坂子町9番地2 関東
産業株式会社内
Fターム(参考) 2D061 DA01 DA02 DA03 DE15

(54) 【発明の名称】 排水カゴ

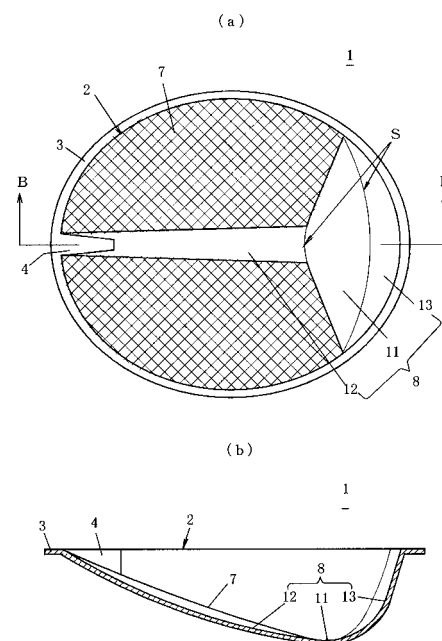
(57) 【要約】

【課題】 厨芥が、排水孔に引っ掛かったりしにくく、また、排水カゴから厨芥を外しやすいゴミ捨てが容易となる構造の排水カゴを実現する。

【解決手段】

排水カゴ1は、全体として碗状に形成されるカゴ部2と、カゴ部2の周縁部に形成されるフランジ部3と、フランジ部3につながるように形成される取手部4と、を備え、カゴ部2は、排水孔形成部7と、排水孔形成部7よりも面積の小さい排水孔非形成部8とを有しており、排水孔非形成部8は、排水ガイド部12、ゴミ溜まり部11及びゴミ捨てガイド部13を有し、排水ガイド部12は、排水孔形成部7の領域において、取手部4の下からゴミ溜まり部11に向かって略直線状に延びている。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

全体として椀状に形成されるカゴ部と、カゴ部の周縁部に形成されるフランジ部と、フランジ部につながるように形成される取手部と、を備えた排水カゴであって、カゴ部は、カゴ部の全体の半分以上の面積を占める排水孔形成部と、排水孔形成部よりも面積の小さい排水孔非形成部とを有しており、排水孔非形成部は、取手部の下方から順次連続的に形成された排水ガイド部、ゴミ溜まり部及びゴミ捨てガイド部を有し、排水ガイド部は、排水孔形成部の領域において、取手部の下方からゴミ溜まり部に向かって略直線状に延びるように形成されていることを特徴とする排水カゴ。

【請求項 2】

請求項 1 記載の排水カゴであって、ゴミ捨てガイド部は、ゴミ溜まり部からフランジ部に向けて形成され、排水孔形成部よりも傾斜が急であることを特徴とする排水カゴ。

【請求項 3】

請求項 1 または 2 に記載の排水カゴであって、排水ガイド部は、排水孔形成部の部位よりも下方に向けて凹んだ凹形状とされていることを特徴とする排水カゴ。

【請求項 4】

請求項 3 に記載の排水カゴであって、排水孔非形成部は、排水ガイド部の両側における排水ガイド部の領域において、ゴミ溜まり部からフランジ部に向かって放射状に延びる複数の補助排水ガイド部を備えていることを特徴とする排水カゴ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、キッチンのシンク等の排水口に取り付けられる排水カゴに関する。

【背景技術】

【0002】

従来のキッチンのシンク等の排水口に取り付けられる排水カゴは、カゴ部全体がパンチングメタル等の多孔状素材や、網目状素材で構成されている。

【0003】

例えば、複数の透過穴を備えゴミ捕集部として機能する受け部を有するストレーナ（排水目皿）において、受け部はパンチングメタルと呼ばれる、薄いステンレス板に複数の透過穴を穿設し、これを曲面形状椀状に加工した受け部を有する構成が知られている（特許文献 1 参照）。

【0004】

また、排水が通過する網目状部及び排水が通過しない孔なし部とから成る捕集排水部を備え、排水中に含まれるゴミは、孔なし部に溜まることなく網目状部側に寄せられて溜まる構成の排水カゴが知られている（特許文献 2 参照）。

【0005】

さらに、排水目皿を、断面形状が長い傾斜面部と短い傾斜面部とで略逆へ字状に形成することで、簡単にゴミを捨てることができ、ネット等を目皿のゴミ捕集面側に被せて使用する場合でも、ネットがゴミ捕集面に密着しないので、ゴミがネットを通過して排水孔に絡む心配がなく、目皿をきれいな状態で使用することができるようにした構成が知られている（特許文献 3 参照）。

【0006】

複数の排水用孔を形成した排水受部と排水受部の外周部の外周縁よりも内側に設けた立上部を備えたヘアキャッチャーにおいて、排水受部を立上部と反対側に向けて下降するように傾斜する傾斜面を有するようにした構成が知られている（特許文献 4 参照）。

【0007】

排水口に取り付けるゴミ受け本体を、その上方開口から底部に向かって内径を狭小しながら下向きに傾斜させた傾斜面部を形成し、底部の位置をゴミ受け本体の平面視において上方開口の中心部から偏心させて配置するようにした構成が知られている（特許文献 5 参照

10

20

30

40

50

）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0008】

【特許文献1】特開2010-126983号公報

【特許文献2】特開2011-63994号公報

【特許文献3】特開2002-13176号公報

【特許文献4】特開2009-7778号公報

【特許文献5】特開2009-52352号公報

【発明の概要】

10

【発明が解決しようとする課題】

【0009】

従来の排水カゴの構成では、キッチンで、発生した残菜や野菜等の切り屑等の厨芥が、排水孔に引っ掛かったり、排水カゴの取手を用いて捨てる時になかなか排水カゴから外れないという問題があった。

【0010】

本発明は、上記従来の問題を解決することを目的とし、厨芥が、排水孔に引っ掛かったりしにくく、また、排水カゴから厨芥を外しやすいゴミ捨てが容易となる構造の排水カゴを実現することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

20

【0011】

本発明は上記課題を解決するために、全体として碗状に形成されるカゴ部と、カゴ部の周縁部に形成されるフランジ部と、フランジ部につながるように形成される取手部と、を備えた排水カゴであって、カゴ部は、カゴ部の全体の半分以上の面積を占める排水孔形成部と、排水孔形成部よりも面積の小さい排水孔非形成部とを有しており、排水孔非形成部は、取手部の下方から順次連続的に形成された排水ガイド部、ゴミ溜まり部及びゴミ捨てガイド部を有し、排水ガイド部は、排水孔形成部の領域において、取手部の下方からゴミ溜まり部に向かって略直線状に延びるように形成されていることを特徴とする排水カゴを提供する。

【0012】

30

ゴミ捨てガイド部は、ゴミ溜まり部からフランジ部に向けて形成され、排水孔形成部よりも傾斜が急であることが好ましい。

【0013】

排水ガイド部は、排水孔形成部の部位よりも下方に向けて凹んだ凹形状とされていることが好ましい。

【0014】

排水孔非形成部は、排水ガイド部の両側における排水ガイド部の領域において、ゴミ溜まり部からフランジ部に向かって放射状に延びる複数の補助排水ガイド部を備えていることが好ましい。

【発明の効果】

40

【0015】

本発明は、次のような効果が生じる。

(1) 排水孔が形成されていない排水ガイド部上を案内して厨芥を排出することができるので、従来例のように、排水孔形成部上に沿って厨芥を排出する場合に比較して、厨芥がカゴ部に引っ掛かることなく排水ガイド部上を滑らすようにして移動させることができるので、ゴミ捨てが容易となり、また、排水孔に詰まって残るようなことが減少し清掃が容易となる。

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図1】本発明に係る排水カゴの実施例1を説明する図であり、(a)は平面図であり、

50

(b) は (a) の B-B 断面図である。

【図 2】実施例 1 の作用を説明する図であり、(a) は厨芥を捕集する状態を示し、(b) はゴミ捨ての状態を示す。

【図 3】本発明に係る排水カゴの実施例 2 を説明する図であり、(a) は平面図であり、(b) は (a) の B-B 断面図である。

【図 4】実施例 2 の作用を説明する図であり、(a) は図 3 (a) の A-A 断面図であり厨芥を捕集する状態を示し、(b) は (a) の状態から排水カゴを取り出してゴミ捨てをしている状態を示す。

【発明を実施するための形態】

【0017】

本発明に係る排水カゴを実施するための形態を実施例に基づき図面を参照して、以下説明する。

【実施例】

【0018】

(実施例 1)

図 1～2 は、本発明に係る排水カゴの実施例 1 を説明する図である。排水カゴ 1 は、全体として碗状に形成されるカゴ部 2 と、カゴ部 2 の周縁部に形成されるフランジ部 3 と、フランジ部 3 につながるように形成される取手部 4 と、を備えている。

【0019】

図 1 (a)、(b) に示すように、カゴ部 2 は、排水孔形成部 7 と排水孔非形成部 8 とを有している。排水孔形成部 7 は、平面視でカゴ部 2 の全体の半分以上の面積を占め、傾斜面として形成され、網目状素材を利用して網状に形成されている。排水孔形成部 7 は、図示はしないが、網状ではなく、例えばパンチングメタル等の多孔状素材を利用し、多数の排水孔が形成されている構成としてもよい。

【0020】

排水孔非形成部 8 は、カゴ部 2 の底に位置するゴミ溜まり部 11 と、排水ガイド部 12 と、ゴミ捨てガイド部 13 とを有しており、排水孔形成部 7 より面積が小さい。

【0021】

排水ガイド部 12 は、排水孔形成部 7 の領域において、フランジ部 3 おける取手部 4 が位置する部分（取手部の下方）から、取手部 4 から遠い側（取手部 4 に対向する側）に向け、ゴミ溜まり部 11 まで、平面視で略直線状で下方に延びるように形成されている。

【0022】

排水ガイド部 12 は、カゴ部 2 における排水孔形成部 7 の表面から下方に向けて凹んだ断面が凹形状に形成されている。要するに、排水ガイド部 12 は、排水孔形成部 7 の表面から凹んで延びる溝のように形成されている。

【0023】

排水ガイド部 12 の取手部 4 側の上端は、フランジ部 3 に連続的に接続するように、その上端に近づく部分において徐々に凹形状の深さが浅くなるように形成されている。また、排水ガイド部 12 の取手部 4 側と反対側の下端は、ゴミ溜まり部 11 に連続的に接続するように、その下端に近づく部分において徐々に凹形状の深さが浅くなるように形成されている（図 1 (b) 参照）。

【0024】

ゴミ溜まり部 11 は、排水ガイド部 12 の下端に連続的に接続され扇状に広がるとともに下方に向けて傾斜してから、徐々に上方に向けて緩やかに傾斜し、急傾斜のゴミ捨てガイド部 13 に連続的に接続されるように形成されている。

【0025】

ゴミ捨てガイド部 13 は、取手部 4 から遠い側（取手部 4 に対向する側）に位置し、上記のとおり、ゴミ溜まり部 11 に連続的に接続するように形成されている。そして、ゴミ捨てガイド部 13 は、排水孔形成部 7 よりも傾斜が急で面積が小さく、排水孔は形成されていない。

10

20

30

40

50

【0026】

なお、図1(a)において符号Sで示す曲線は、排水ガイド部12、ゴミ溜まり部11及びゴミ捨てガイド部13のおよその領域を把握する都合上、互いの境界あたりを示すために、便宜上記載したが、実際は、排水ガイド部12、ゴミ溜まり部11及びゴミ捨てガイド部13は、互いに連続的に接続されているので、この曲線Sのように明確に区分されるものではない。

【0027】

取手部4は、排水ガイド部12上において、カゴ部2の内面からカゴ部2の中心に張り出し、その上面は、フランジ部3の上面と面一となるように形成されている。このような取手部4を使用者が指で掴めば、排水カゴ1を持ち上げたり、傾けたりすることができる。

10

【0028】

(作用)

以上の構成から成る実施例1の排水カゴ1の作用を説明する。図2(a)は、排水カゴ1を、例えばキッチンのシンクの排水口17に装着し、厨芥19を捕集する状態を示す。排水蓋18を通して排水が矢印に示すように排水カゴ1内に流入すると、排水は、網状の排水孔形成部7の網目を通過し配水管20から排水される。

【0029】

排水中の厨芥19は、排水カゴ1の排水孔形成部7に引っ掛かって捕捉される。排水孔形成部7は傾斜面になっているので、捕捉された厨芥19は、排水カゴ1の下方に移動して、ゴミ溜まり部11に集まりやすい。

20

【0030】

また、排水ガイド部12は、排水孔非形成部8の一部として形成されているので、厨芥19は排水で浮いて排水ガイド部12の上面に付着するようなことなく、排水とともに流下し(図2(a)の白抜き矢印F参照)、ゴミ溜まり部11に集まりやすい。

【0031】

排水カゴ1内に捕集した厨芥19を捨てる場合には、使用者は取手部4を把持して排水カゴ1を排水口17から取り出す。そして、図2(b)に示すように、取手部4が上方で排水孔非形成部8が下方に位置する姿勢となるように、排水カゴ1全体を下方に向けて傾ける。

30

【0032】

すると、排水カゴ1のゴミ溜まり部11に捕集された厨芥19は、排水孔非形成部8の一部として形成されているゴミ捨てガイド部13上を滑るように案内されて移動し、排出される(図2(b)の白抜き矢印参照)。

【0033】

このように、排水孔非形成部8の一部として形成されているゴミ捨てガイド部13上を案内して厨芥19を排出することができるので、従来の排水カゴのような、排水孔の形成された面上に沿って厨芥を排出する場合に比較して、厨芥19がカゴ部2の内面に引っ掛かることなく、排水ガイド部12上を滑らすようにして移動させることができるので、ゴミ捨てが容易となり、また、厨芥19が排水孔形成部7の網目に詰まって残るようなことが減少し、清掃が容易となる。

40

【0034】

(実施例2)

図3～4は、本発明に係る排水カゴの実施例2を説明する図である。この実施例2は、実施例1とほぼ同じ構成であるので、相違する構成を中心に、以下説明する。なお、実施例2において、実施例1と同じ構成については同じ符号を付す。

【0035】

実施例2の排水カゴ31は、実施例1の排水カゴ1と同様に、全体として碗状に形成されるカゴ部2と、カゴ部2の周縁部に形成されるフランジ部3と、フランジ部3につながるように形成される取手部4と、を備えている。取手部4の上面は、フランジ部3の上面

50

と面一につながるように形成されている。

【0036】

実施例2の排水カゴ31においても、カゴ部2は、実施例1と同様に網状の排水孔形成部7と排水孔非形成部8とを有している。排水孔非形成部8は、排水ガイド部12、ゴミ溜まり部11、ゴミ捨てガイド部13及び後記する補助排水ガイド部32を、備えている。

【0037】

即ち、この実施例2の排水カゴ31は、実施例1の排水カゴ1と異なり、排水孔形成部7の領域において、排水ガイド部12の両側に、それぞれゴミ溜まり部11の下端縁から、該下端縁に対向する側のフランジ部3に向かって、平面視で放射状に略直線状で上方に傾斜して延びるように、複数の補助排水ガイド部32が形成されている（図3（a）参照）。

10

【0038】

この補助排水ガイド部32は、排水ガイド部12と異なり、凹形状には形成されておらず、カゴ部2の椀状の部分における排水孔形成部7を構成する部位と同一曲面内に形成されている。要するに、補助排水ガイド部32は、カゴ部2の椀状の傾斜した排水孔形成部7の領域において、排水孔形成部7と同一曲面内で、排水ガイド部12の両側に排水孔非形成部8の一部として帯状に形成されている。

【0039】

なお、図3（a）に示す曲線Sは、実施例1の図1（a）の曲線Sと同様に、ゴミ溜まり部11とゴミ捨てガイド部13のおよその領域を把握する都合上、互いの境界あたりを示すために、便宜上記載したが、ゴミ溜まり部11とゴミ捨てガイド部13は互いに連続的に接続されているので、この曲線Sのように明確に区分されるものではない

20

【0040】

（作用）

以上の構成から成る実施例2の排水カゴ31の作用を説明する。実施例2の排水カゴ31の作用は、基本的には、実施例1の排水カゴ1の作用とほぼ同じである。しかし、実施例2の排水カゴ31は、排水孔形成部7の領域において、排水ガイド部12の両側に、放射状に略直線状に延びる複数の補助排水ガイド部32が設けられているので、実施例1の排水カゴ1の作用に加えて、次のような作用が生じる。

30

【0041】

即ち、矢印に示すように排水カゴ31内に流入した排水は、排水孔形成部7の網目から排水されるが、実施例1と同様に、排水の一部は、排水ガイド部12の上面を下方へ流下し、その際、排水ガイド部12の上面又はその近傍に付着した厨芥19を水で浮かすようにして下方に流す。

【0042】

加えて、実施例2の排水カゴ31では、図4（a）の白抜き矢印に示すように、排水カゴ31内に流入した排水の一部は、補助排水ガイド部32の上面に沿って下方へ流下する。その際、補助排水ガイド部32の上面又はその近傍に付着した厨芥19を水で浮かすようにして下方に流すので、厨芥19を排水カゴ31のゴミ溜まり部11上に集積して溜めやすくなる。

40

【0043】

また、排水カゴ31内に捕集した厨芥19を捨てる際に、実施例1の場合と同様に、取手部4を把持して、図4（b）に示すように、取手部4が上方で排水ガイド部12が下方に位置するような姿勢になるように、排水カゴ31全体を下方に向けて傾ける。

【0044】

すると、実施例1の場合と同様に、排水カゴ31のゴミ溜まり部11に捕集された厨芥19は、排水孔非形成部8の一部として形成されているゴミ捨てガイド部13上を案内されて滑るように移動し、排出される（図4（b）の白抜き矢印参照）。

【0045】

50

なお、排水ガイド部 1 2 及び補助排水ガイド部 3 2 の下部辺りに溜まっている厨芥 1 9 は、排水ガイド部 1 2 及び補助排水ガイド部 3 2 上を案内されて滑るように下方に移動し、上記のように、ゴミ溜まり部 1 1 から排出される。

【0046】

そのため、従来の排水カゴのように、排水孔の形成された面上に沿って厨芥を排出する場合に比較して、厨芥 1 9 が、カゴ部 2 の内面に引っ掛かることなく、排水ガイド部 1 2、補助排水ガイド部 3 2 及びゴミ捨てガイド部 1 3 上を滑るようにして下方に移動し、ゴミ捨てが容易となり、また、排水孔形成部 7 の網目に詰まって残るようなことが減少し、清掃が容易となる。

【0047】

以上、本発明に係る排水カゴを実施するための形態を実施例に基づいて説明したが、本発明はこのような実施例に限定されるものではなく、特許請求の範囲に記載された技術的事項の範囲内でいろいろな実施例があることは言うまでもない。

【産業上の利用可能性】

【0048】

本発明に係る排水カゴは上記のような構成であるから、キッチンのシンクの排水口に装着する排水カゴにかぎらず、必要に応じて、浴室、洗面シンク等の排水口に装着する排水カゴにも適用可能である。

【符号の説明】

【0049】

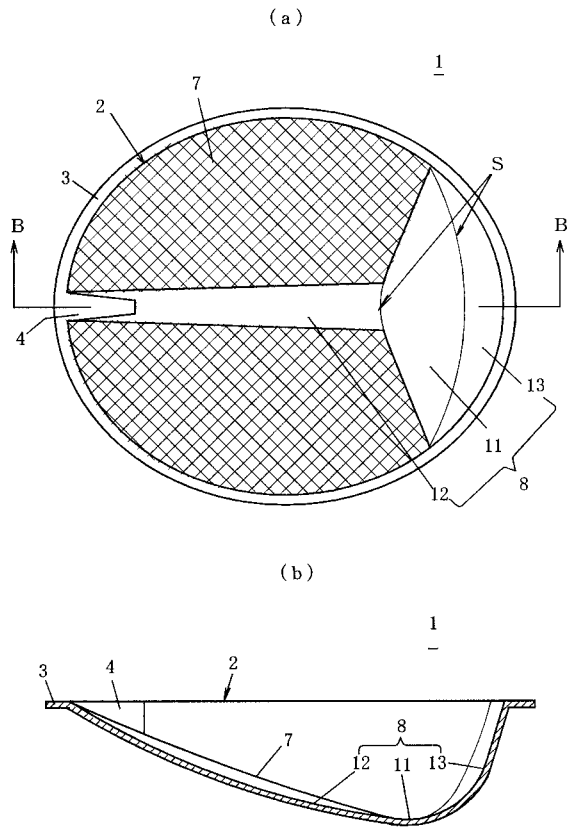
- 1 排水カゴ
- 2 カゴ部
- 3 フランジ部
- 4 取手部
- 7 排水孔形成部
- 8 排水孔非形成部
- 1 1 ゴミ溜まり部
- 1 2 排水ガイド部
- 1 3 ゴミ捨てガイド部
- 1 7 排水口
- 1 8 排水蓋
- 1 9 厨芥
- 2 0 配水管
- 3 1 排水カゴ
- 3 2 補助排水ガイド部

10

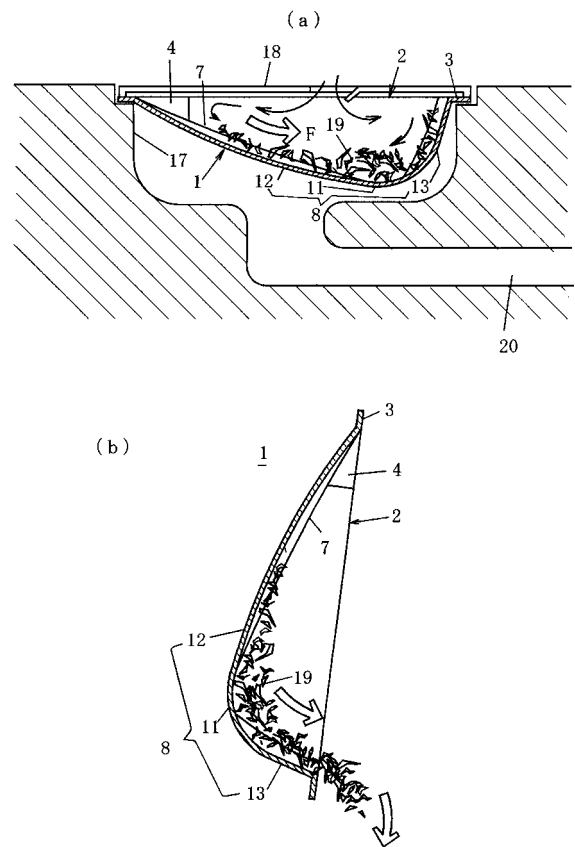
20

30

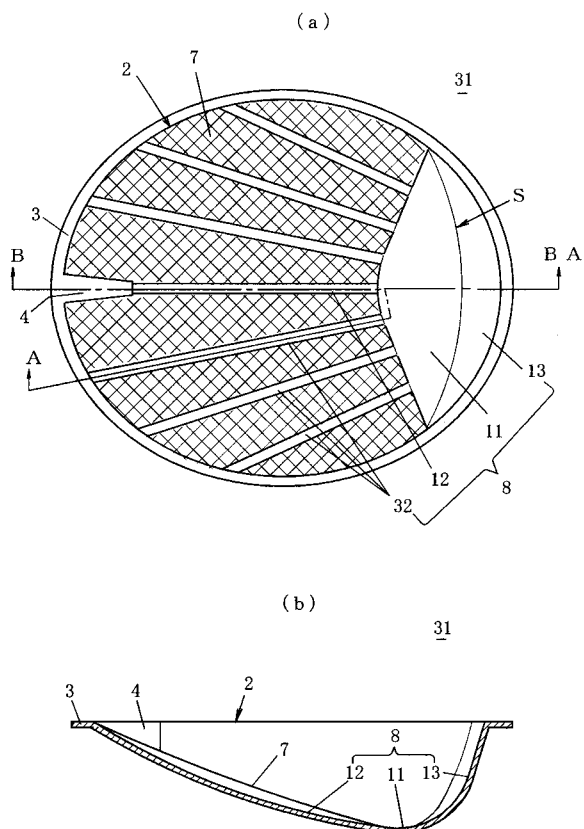
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

